

令和5年度 第4回 政策決定会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和5年9月29日（金） 10：00～10：28
 - ◆開催場所：市長公室
 - ◆出席委員：永野市長、堤副市長、波積副市長、大下教育長
 - ◆説明者：寺本財務部長、新内財政課長、浅野参事、高木予算担当長
-

◆審議事項

令和6年度予算編成方針について・・・・・・・・・・・・・・・・・・財務部財政課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈堤副市長〉先日、決算常任委員会があったところだが、黒字決算で終わられて良かった。平成28年度決算では10億円程度の赤字であり、そのことを思うと健全な運営になっている。是非継続させてほしい。ただ、財政調整基金はまだ不足している。決算常任委員会でも質疑があったが、本市では本年3月末に策定した「岸和田市行財政改革プラン」に基づき、標準財政規模450億円の2割をめざし、行革を進めているところ。まだ70億円しか積み立てられておらず、90億円まで20億円不足している状況。今年度20億積み立てられるようにされたい。

岸和田市ではその財政規模からみて「20億円」がひとつのキーワードになっているように思う。財政調整基金も20億円積み立てる必要があるし、今回策定した「岸和田市財政計画」でも経常収支比率については、令和8年度以降には100%を超える見込みである。大阪府の96%はせめてめざしていく必要がある。令和7年には万博があるが、この後は楽観できない。前回の大阪万博の後には物価が上がり、不況が来て、大阪の衰退もその頃から始まったとも言われている。岸和田市も今後、人口減少により、交付税が15億円程度大きく減少することが予測されており、加えて、退職手当が5億円程度かかるので、合計で20億円不足額が出てくる。さらに、100%の経常収支比率を96%にするためにも、1ポイント4億円程度なので、20億円程度必要になる。岸和田市として「20億円」という数字を常に意識し、今のうちからしっかり積み立てをしていく。20億円程度のお金は常に用意できるような黒字体質にしていくことが非常に重要。

今回の予算編成方針の柱は、“教育・子育て”、「日本一災害に強い都市・岸和田づくり」のための救急体制の整備も含めた“防災”、新型コロナウイルス対策に替わって新たに加わった“万博”の3本である。査定の中で、コロナ禍だったために実施した事業とコロナ禍とは関係なく実施した事業の見極めをきっちりしてもらいたい。令和元年度の本市の決算額は740億円程度であったにも関わらず、令和2年度には960

億円になっている。その分、コロナ禍による臨時収入があり、サービスが充実したということ。これら 200 億程度の事業がそのまま継続できるわけではないので、十分な精査が必要。特別会計ではあるが、とりわけ病院事業は空床補償で潤ってきた。これから非常に厳しい状況になってくることが予想され、一般会計からの支出も必要になる可能性があるため、よく注意しておく必要がある。

万博は歳入がなく、歳出を強いられる可能性が非常に高い。つまり、万博関連のチケット、グッズ等の売上による利益が本市に入ってくるわけではないが、協力・支援を求められる圧力が強まってくる。万博の成功を願っているが、「未来社会のデザイン」というテーマのとおり、岸和田市の未来社会のために役立つような事業を行っていくことが重要であるため、よく精査されたい。

最後に、国の動きについて。今年度は引き続き景気が良く、税収は昨年度 71 兆円超えで今年も過去最高になり、その分、過去最高だった今年の 18 兆円を超える交付税総額が積み上がってくることも予測される。長期的には厳しいかもしれないが、短期的には余裕があるため、国からの財源を獲得するため、国の動きを注視しておくこと。

〈波積副市長〉 国の予算は 2 つの性格があり、論理的に必要であるため予算をつける場合と、新規事業・モデル事業に予算をつける場合の 2 つがある。後者の場合、モデルは実際の市町村の現場にあることが多い。概算要求の状況を各担当部署で見極めながら、うまく確保できるよう研究し、国の方向性に沿った事業を組み立ててもらいたい。

予算はつけるだけでなく、その後の業務の執行を効率化し、予算を余らせて、いかに基金に積み立てたり、新規事業に活用したりできるかが大事だと思っている。そのために組織マネジメントが必要。モデルは国ではなく民間にある。トヨタ自動車など世界と戦って成果を出している先進的な日本企業の最善のノウハウをいかに役所に取り込むかが重要であるが、その展開には、職員がスキルを身に付ける必要がある。業務執行の効率化と合わせ、ぜひ職員のスキルアップを図りたい。

全てにというわけではないが、業務を遂行する上で、数値化した目標を入れられないか。どの業務で実行するかは実際には難しいと思うが、泉州ナンバーワンといった目標を組み込んでうまく業務を回せればと思っている。その際には、ただ効率化するだけでなく、職員が楽になり一人当たりの生産量・業務量が向上し、効率化した結果、予算が少なく済み、別に活用できる。そういった体制が構築できればと思っている。そういう意味でも、最終的な執行をいかにうまくするかを課題としているので、皆さまと議論しながら仕組みを作っていきたい。

〈教育長〉 本市の財政構造をみたとき、経常収支比率が非常に悪いことも含め、自主財源のベースが弱い。それを培っていくような政策投資が必要。今回、予算編成方針の柱のひとつに、“教育・子育て”を入れていただいていることは非常にありがたく思っている。ぜひメリハリのある財政査定をしていただき、将来の本市の成長につながるような事業については、積極的な予算編成をお願いしたい。

また、防災や万博を優先事業にしているが、例えば、万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を産業振興やインバウンドの拡大にどのように繋げるのかを考えたときに、それをどう事業化し、予算化していき、市民の利益に繋げるのかということについて市としてしっかり取り組んでいくことが重要だと考える。

〈市長〉 コロナが明け、局面が変わっていくと感じている。万博への対応も色々あると思うが、

万博については、様々なイベントに「万博」や「EXPO」といった名前を付けて実施していけば良いと思っている。万博に対して市が多くの予算を費やして新たなことをするというのではなく、今まで行っていたことを万博にアレンジしていくようにすれば良い。万博そのものを盛り上げることだけが大事なのではなく、大事なのは万博を活用して何ができるかということ。万博に力を入れても、その後の期間が冷え切ってしまうのは元も子もないので、岸和田市市制施行100周年の時と同様、万博を活かすという視点を持ち、その後賑やかになっているか、その後伸びていくかという発想で進めていきたい。子育てについても記載があるが、必要なことにはしっかり投資していかなければいけない。この方針に従ってスムーズに進めていくというより、投資につながる事業かどうか、この方針を通じて活発に議論し、進めてもらいたい。行政はどんどん業務が足されて複雑化していくが、時々引き算が必要。引き算によるレベルアップもあると思うので、引き算の視点を常に持ち、進めてもらいたい。

〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してほしいか。

【異議なし】

⇒本件を原案のとおり承認する。

令和5年9月 26 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 財務部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	令和6年度予算編成方針について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	令和6年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当
説明者	新内財政課長 浅野参事 高木予算担当長
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第4回会議
付議事項	令和6年度予算編成方針について

★取組の目的

対象	職員
どのような状態を目指す	令和6年度予算編成にあたり、その骨子となる予算編成方針について、付議する。 ■効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第3条第2号に該当

★総合計画上の位置付け

6020402	基本目標	みんなで作る持続可能なまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	持続可能で信頼される行政になっている
	個別目標の方向性	④ 安定的な歳入確保と適切な歳出管理を進める
	行政の役割	中長期の視点で、効果的・効率的な財源配分や単年度収支及び基金・借入金の管理を行う

★現状と課題

「岸和田市健全な財政運営に関する条例」に基づき、持続的かつ計画的な財政運営に資するため、毎年、財政計画を策定し、次年度の予算編成を行っている。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源								
	その他								
事業費	計			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			0	0	0	0	0	0	

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有	無						

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値					
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
①										
②										

※事業費及び人員を確約するものではない。